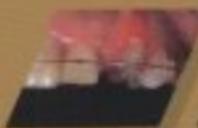


Osseointegration  
study club of Japan

# 天然歯を活かした インプラント治療

—矯正・ペリオ・自家歯牙移植との共存—



オッセオインテグレーション・スタディクラブ・オブ・ジャパン

## 19thミーティング抄録集

監修：瀬野裕行

編集：松井徳雄  
寺本昌司梅津清隆  
中川雅裕岡田素平太  
藤波 淳

日馬清人

著：南宮 茜  
喜田裕太  
佐藤弓菜  
新村豊弘  
山田陽子

曲田吉郎  
片山 茜  
萬原由美子  
二階堂雅志  
酒井芳弘

池田義史  
半地實行  
西成雅基  
丹野 勉  
長谷川孝生  
木澤大輔

石原義郎  
川原昇太  
月星光輝  
水上哲也

市岡千春  
朝吹大輔  
中野忠恭  
三崎一純  
瀬野 誠  
喜田裕太  
豊根礼二  
三好勢三

QUINTESSENCE PUBLISHING

クインテッセンス出版株式会社

## 反対咬合をともなった上顎無歯顎へ ボーンアンカードブリッジを適忈した症例 —舌房を確保するために—



川里邦夫

Kunio Kawasato

大阪府開業

## 略歴

1988年 滋賀大学歯学部卒業

1993年 日本歯科医師院第1回

2002年 Sennariki(セナリキ)と歯科診療監修者

日本臨床歯学専門会、日本臨床歯科専門会インプラント認定医、JCDI (JCDI)

## はじめに

反対咬合をともなった上顎無歯顎症例における機能性・審美性の回復は離別の再現だけでは難しいことが多い。創設的に口唇部のボリュームが必要となり、十分なリップサポートを得る必要があるため、従来の補綴方法では、フルデンチャー、インプラントを適用する場合はガム付きあるいはオーバーデンチャーが選択肢となる。

今回、有歯時期時に反対咬合を呈していた上顎無歯顎症例に対し、8本のインプラントを埋入してシリンダーパーを開いた中間構造体付きのボーンアンカードブリッジによって補綴装置を実施し、機能性・審美性とともに良好な結果を得た症例を報告する。

## 症例供算

## 現症

上顎臼歯部にはケラスプのバーシャルデンチャー、左側下顎臼歯部には後展頸付ボーセレンブリッジ、右側下顎臼歯部にはメタルブリッジが装着されているが、オーバーバイト-5mm、オーバージェット-4mmと反対咬合で咀嚼障害があった。また、デンチャーの着脱には不自由を感じていた。

## 口腔内所見

複数の歯に不適合な補綴装置を認め、歯肉退縮によるクラウンマージンの露出や、さまざまな色調の補綴装置

や修復欠損が既往し、根面障害・審美障害となっていた。上顎に比べて、下顎は前歯弓幅径が大きく、下顎前歯部には叢生が認められ、反対咬合であった。そのため、上顎前歯の植根装置は、正常な位置を付なしように施設されよりも括弧へ大きく逸脱していたが、前歯・臼歯と交叉咬合の状態であった。前歯の深い逆被覆関係が認められ、デンテリアカッピングの機能は喪失していた。さらに、咬合高径が低下しており、反対咬合が増悪している(図1)。咬合高径の低下は明らかであったが、歯間部に症候はなかった。

## 検査・診断・治療計画

## 検査

頭部写真から正観は左右非対称であり、顔面正中に對して下顎が1.5mmに右方偏位していた。側観におけるEラインからの距離は上唇-3mm(平均値: 0mm ± 1.5mm)、下唇 2mm(平均値: 2mm ± 1.5mm)で上口唇は後方にあり、下口唇は正常であった。鼻唇角85°(平均値: 105±8°)で上唇は前方に傾斜していた(図2)。

デンタルX線写真から、底存補綴装置の不適合と不十分な根管治療が認められたが、歯槽骨の吸收はなかった(図3)。

歯周相隔検査の結果、4mm以上のポケット占有率は5.9%、BOP陽性率は11.8%であり、歯肉炎が認められた程度であった。下顎4前歯には1度の着替があった(図4)。

側面頭部X線写真では咬合高径を切端咬合まで挙上し